

NPO法人ありんこに
関する詳しい情報は
公式ホームページ
arinnko.sakura.ne.jp
にて公開中！！

ありんこだより

発行 NPO法人ありんこ編集部
編集責任者 一戸 由佳
住所 青森県弘前市大字富栄
字笹崎80-1
電話 0172-96-2774
Fax 0172-55-9591

職員研修を行っています 前期は2施設の見学が終了しました

NPO法人ありんこの課題の一つとして、職員の研修の充実があります。これまでは主に事業所内での研修が中心でした。外部から講師を招いたり、看護師が中心になって企画して、医療的な基礎知識の勉強会を行ったりしてきました。

しかし、設立当初は、市内のいろいろな事業所を見学させていただいて、自分たちの日頃の支援を振り返ったり、比較したり、いろいろな気づきがありとても勉強になったことを思い出しました。

その後、職員の多くは入れ替わり、また、市内には新規開設した事業所も増えてきました。

そこで、今年度は、主にやよいのあかりに通う子どもたちが並行して通っている事業所を中心に、見学をお願いをさせていただいており、これまで2施設を見学させていただくことができました。

見学後には、参加した職員全員にレポートを提出してもらっています。日々自分たちが行っている支援との共通点、逆に異なるアプローチで興味深かったこと、また、共通する子どもたちの違った一面を発見したり、事業所間で共通認識したり、短い時間ではありましたが、職員の皆さんとも交流させていただき、職員のレポートからは、とても貴重な経験になったことがよくわかります。

夏休み期間で外部研修は一度中断しますが、秋にはまた再開したいと考えています。今後も市内のいろいろな事業所と連携し、幅広く研修を行い、利用者様により良い支援が行われるように、職員のスキルアップを図ってまいります。

ご協力いただいた事業所の皆さまありがとうございます。

これからお邪魔する事業所の皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。



「こどもサポート きのね」見学



「放課後デイステーションEarth」見学

施設の施錠にご理解をお願いします



昨年の相模原の事件を受け、事業所では安全対策の強化を行ってきました。防犯カメラの設置や、さすまたの購入など、できる範囲で備えてきたところです。また、地域に開かれた施設を目指して営業時間中はできるだけ施錠しないという考えでおりましたが、これも昨年事件後インターホンを設置し、一定時間施錠することにしておりました。しかし、今回富山市で起きた、警察官の銃を奪っての発砲事件で、犯罪心理学の専門家が、「このような事件の被害に遭いやすいのは、社会的な弱者であり、学校や福祉施設などがターゲットになりやすい。」と話していたのを聞いて、改めて、危機管理について考えました。

そして検討の結果、基本的には終日施錠をすること。事業所関係者以外は所属や来所の用件が見ただけでは判断できないため、基本的には、事前にご連絡いただくことが望ましいことを確認しました。そこで、大変ご面倒をおかけしますが、原則としてお越しいただく前にご連絡くださるようお願いいたします。また、当日突然の場合には、対応できないことがありますので、あらかじめご了承ください。

(連絡先Tel 0172-96-2774 やよいのあかり)



御用の方はインターホンを！！

避難訓練



「やよいのあかり」では毎月定期的に利用者様と一緒に避難訓練を行っております。火災や地震、水害や不審者対策など、様々な状況を想定し、避難経路や避難場所も様々に設定して、いざという時に慌てないようにしています。

大阪で大きな地震の起きた6月には2階の避難用スロープ(滑り台)を使った避難を職員同士で確認しました。いざという時に生命を優先しつつできるだけ安全に避難できるように備えています。



理事長のつぶやき

ありんこまつりに向けて

ご存知の通り、私は准看護学科の2年生である。今は臨地実習の真っただ中。

目の前のことをこなす、必死な毎日である。

そんな中、毎年ありんこまつりはやってくる。

第7回の祭りは7月7日。なんとトリプル7である。

それなのに、裏方のホンの僅かな手伝いしかできないもどかしさ。

毎週月曜日は実習がなく、午後からの登校なので、ややあかに顔を出す。

子どもたちがいない時間を見計らって、職員はみんな本当に一生懸命に準備してくれている。

どうやったら障害のある子供たちも楽しむことができるか。どうしたらみんな一緒にできるか。いろいろな視点から工夫を凝らし、アイデアはどんどんあふれ出ているようだ。

自分が中心になって準備をしていた頃と比べて、みんな本当に想像力が豊かになったなあと感じる。

どうなるかな。どんな感じかな。どんな気持ちかな。

職員同士も色々な話をしながら考えているのが見える。その話の真ん中に、ややあかの子どもたちがいる。

昨年同様今年も蚊帳の外で、私としてはとても寂しいのだが、実はとても頼もしく感じている。ああ、私はもういなくても大丈夫だなと。

みんながこんなに頑張っているのだから、せめて7月7日は晴れてほしい。年に1度、織姫と彦星も会いたいのだろう。七夕様にあやかって、晴天であることを願う。

私にはそんな力はもとよりないが、ただ、祈ろう。